

【研究発表・助言者講評・講演】

研究発表 「PTA活動 実践報告」

タイトル 「殻を打ち破れ！ピンチはチャンス！明るく楽しくPTA！」

講演者 松本美子

学校名 小田原東高等学校PTA

1 はじめに

これより第60回、高P連県西地区協議会大会研究協議「殻を打ち破れ！ピンチはチャンス！明るく楽しくPTA！」をテーマに、神奈川県立小田原東高等学校PTAの発表を行います。

(参加者で仲良くなるアクティビティ)

本校PTAは、会議などにに入る前に、いわゆる「アイスブレイキング」的な要素を取り入れて、和やかなムードを醸成し、円滑に議事が進むような取り組みを行っております。

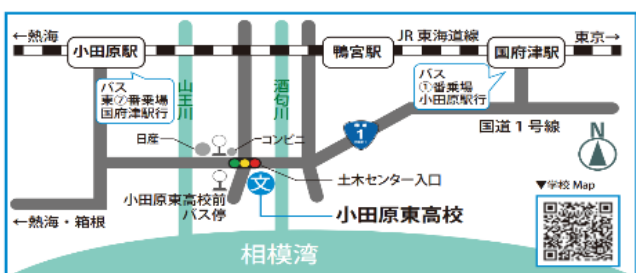
(アイスブレイク)

2 学校紹介

はじめに簡単に学校の紹介をいたします。神奈川県立小田原東高等学校は、小田原市の東町、国道1号線沿いにあります。スライドの地図をご参照下さい。

小田原は平たんな土地が多いため、多くの生徒は自転車で通学しております。

また、交通機関を利用した場合は小田原駅からバスで約10分、国府津駅からバスで約15分程度の所要時間です。生徒の通学利便性向上のため、通学時間帯はスクールバスの運行も行っております。



学科は、総合ビジネス科と普通科を併置しております。

クラスは各学年、総合ビジネス科3クラス、普通科3クラス、計6クラス、全校で18クラス規模であります。

本校は昨年度創立百周年を迎えました。記念式典を来月11月5日土曜日、小田原三の丸ホールで実施します。こちらは学校関係者のみで行います。

なお記念式典後に、記念祝賀会を同窓会が主催して行います。こちらは同窓生等に幅広く案内しておりますので、本日お越しの同窓生の方は、ぜひご参加ください。

また、本校では生徒が主体的に行事に参加する機会を数多く設けており、その一環として百周年記念式典の題字を、在校生が通っている書道教室の先生に指導を受け、作成いたしました。

こちらが作業風景と、完成した題字です。作業時間は3時間くらいかかりました。



百周年記念式典の立て看板の題字も、在校生が作成いたしました。



3 P T A 活動紹介

本校のP T A活動を紹介する前に、この時代には必須である感染症への対策の取り組みをご紹介します。

コロナ禍で各種活動が制限される中、出来る限り持続可能な形で運営を行うため手、指の消毒、換気などの基本的な対策はもちろん、専門家の資料などを参考にして、最大限の感染症予防に努めております。

神奈川県立小田原東高等学校P T Aの組織をご紹介します。

- 本部 ○会計監査
- 常置委員会
 - ・生活委員会 ・学年委員会
 - ・広報委員会 ・成人教育委員会

○ふれあい委員会

各学校も名称は異なるものの、同じような委員会があり、それぞれ活動されていると思います。

本校では年間を通して活動する常置委員会の中で、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が大幅に制限されてしまった「成人教育委員会」の、ピンチをチャンスに変え、逆境を乗り越えた活動と、イベントなどで活動する「ふれあい委員会」という、特徴的な部署につきまして、のちほど詳しくご説明させていただきます。

P T A本部は、P T A組織の中核で、これからご紹介する各常置委員会と共に、委員会活動に協力し、組織全体を一枚岩にすべく皆さんで協力して活動しております。また、このような発表会など、外部の活動にも積極的に取り組んでおります。

生活委員会は、主に生徒の交通安全に関わる活動を行っております。年2回の自転車点検は、整備不良などで事故になることを未然に防ぐことはもちろん、鍵がきちんとあるかなど防犯の側面も重視しております。また、交通安全大会に参加しております。



9月21日に実施された自転車安全点検です。地域の自転車屋さんによって、一台一台点検を行い、修理や整備の勧告を行いました。

学年委員会は、主に正面玄関周りの花壇の整備を行っております。生徒や来校者が目にするところなので、常にキレイに整備するという事を心掛けております。水やりなどは当番制で行っており、子供を連れて、楽しく活動しております。



広報委員会は、主に各種学校行事、PTA活動取材し、原稿作成などを行い、広報誌を作成しております。体育大会の取材では、メンバーがカメラマンとなり、生徒のベストショットを狙ってグラウンドを駆け回ります。その後、それぞれが撮影したデータを持ち寄り、編集作業を行います。



成人教育委員会は、イベントの企画・運営などを行っております。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、イベントがここ数年実施できておりません。そのため、このような状況下でもできることを模索し、先ほど申し上げた通り、特徴的な活動を行っております。

昨年度はSDGsを意識したエコバッグを製作し、文化祭で生徒に配付しました。

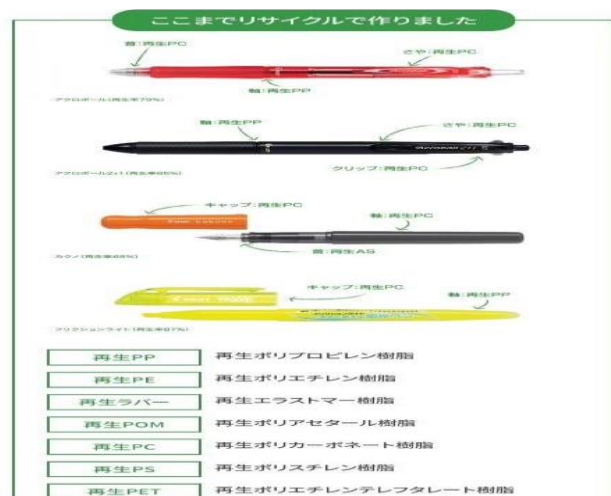
デザインはあえてシンプルにし、生徒自らが装飾を行えるように生地は白地に近いものにししました。ロゴは小さめに、肩に掛けたときに、見えるように配置を工夫するなど、長期に渡り使用できるように配慮しました。



今年度は、生徒が使えるものとして、マフラータオルかボールペンを配付する2案が出ました。実用面はもちろんのこと、どのようなものでしょうか、メンバーで協議しました。

協議の結果、昨年度はSDGsを意識したエコバッグであることから、環境に配慮したエコボールペンに決まりました。リサイクルされている材料で作られているエコボールペンを探すのは、以外と難しく苦労しました。

各方面を探していたところ、役員の勤務先に今回のコンセプトに合うものがある、と連絡を受けました。消耗するインク以外、部品のほとんどがリサイクルされているもので、私たちのコンセプトにみごと合致しました。



こちらが制作したボールペンです。



赤・黒・青の3色インクのタイプで、使い勝手も良くしました。本体カラーも6色用意し、個別に包装しました。



校名も印字してあります。

配付段階で包装されているので色が分からないため、配付された際に何色なのかというドキドキ感を演出し、友達と話して、互いに気に入った色に交換するなど、クラス全体としてコミュニケーションが活性化されることも今回の目的の一つでありました。実際に配付した際はその場で何人かが交換を行っている様子があったそうです。また、製品自体の受けもととてもよかったとのことでした。

ふれあい委員会は、本部と各委員会横断型の委員会で、各種イベントの中心的な役割を果たしております。

体育大会では、給水サポートを行っております。コロナ禍前は、熱中症予防として、PTA本部でジャグを使い、生徒にスポーツドリンクや麦茶の提供を行っておりました。しかし、コロナ禍になり、ジャグでの水分提供が難しくなり、成人教育委員会と本部で、生徒及び教員にスポーツドリンクとお茶のペットボトルを配付する形に切り替えました。特にペットボトルのスポーツドリンクは、生徒に大変好評でした。



朝早くに集合し、クラスごとに段ボールに仕分けしたドリンクを、生徒たちに運んでもらいます。コロナ禍での活動ですので、配付に際しては、ペットボトルのフタに出席番号を記入して、自分の持ち物だと分かるようにし、誤飲などの防止策を講じております。

文化祭への協力です。

昨年度、本校の文化祭は在校生のみでした。今年度は在校生の保護者まで来場者が拡大されました。販売するものについてですが、特に飲み物はコロナ禍により、活動の幅が小さくなってしまったマーケティングの授業と協力して選定、生きた教材とするべく、アンケートを行い、生徒の嗜好を確認、それに基づいて仕入れ計画を行いました。また、販売結果などを授業にフィードバックして分析するなど、多角的に活動を行いました。他の生徒販売団体ともかぶらないように担当教員を通じて調査し、気を配りながら選定を進めました。



文化祭当日は人の導線は一方通行とし、机と机の間隔をあける、同じ向きに座るなど、感染症対策に細心の注意を払っておりました。また、食券制にすることにより、商品の受け渡しがスムーズに行えました。

他に地域貢献の一環として、脳梗塞等により半身麻痺になってしまった方々のリハビリ施設、作業所「ゆう」様の皆様がリハビリのために製作したかわいい刺繍をした雑巾の販売も行いました。

最後に地域の業者との協力・協働についてご報告します。各種行事で使用するものを仕入れる際、ヤオマサ中町店様に大変お世話になっております。本校PTAがSDGsを意識した活動を行っているということを知っているため、ゴミなどの分別に積極的にご協力いただいております。



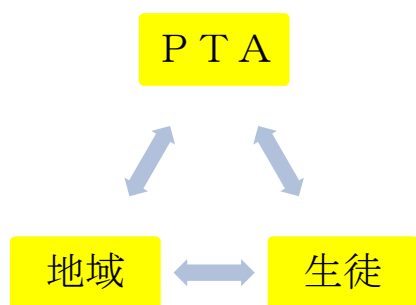
また、地元老舗和菓子店である正栄堂様と、本校の生徒が運営主体となっている「城湯屋」というお店と、PTAが共同で開発したEードラと呼ばれるどら焼きに、百周年の特別パッケージの絵で包装しました。パッケージの絵は、生徒の主体的な活動の一環として募集をかけて、選考を行い、最終的にPTA内で採択しました。地元小田原のイメージが反映された図柄となりました。パッキングの際には、脱酸素剤をサービスで入れていただきました。



他にも正栄堂様には焼き印を作成していただき、卒業式の際に配付する紅白饅頭などに使用しております。

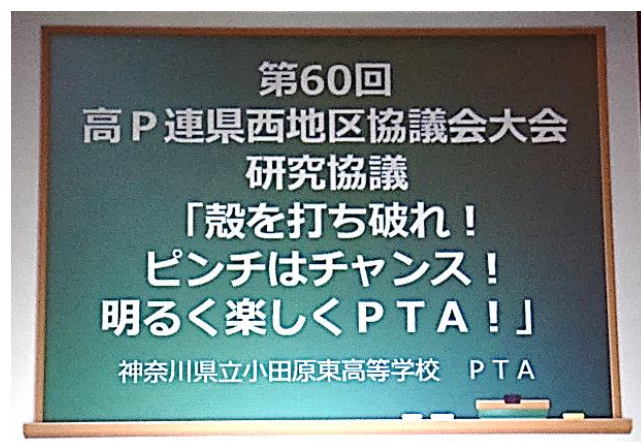
このように、本校PTAは生徒の主体的な活動の手助けをしつつ、地域と協力して地元の活性化に少しでもつながる活動を行っております。

従来の固定された活動や固定観念にとらわれることなく、殻を破り、生徒・教職員、そして地元と共に歩み、繁栄できる組織でありたいと願っております。



コロナ禍という厳しい社会情勢ではありますが、アフターコロナを見据え、今から、そしてこれからもできることを考え、メンバーで協力して活動を盛り上げて行きたいと思っております。

今回の発表が少しでも皆様にとってご参考になれば幸いです。今後ともよろしく願いいたします。



助言者講評

西湘高等学校長 山田 五郎

新型コロナウイルスによって学校やPTAの活動が大きな影響を受けたと思います。本日の小田原東高等学校PTAの皆様の発表が集まったり、触れ合ったりする活動が制限されている中でもできる活動のヒントを与えてくれたと思います。マスクで相手の表情が見えず、会話を控えるなど、会議などの集まりでもストレスが溜まる中、緊張を解き、円滑に議事が進むように和やかなムードを醸成するアイスブレイキングを実施するということはとても良い試みだと思いました。

続いて、本部と各委員会の活動報告がございましたが、活動を制限されながらもあきらめずに、できることを確実にやっている姿が映し出されていました。このことは各校の皆様におかれましても同様だと思います。生徒のためにできる限りの活動をする姿勢が学校関係者にとってありがたいことだと思います。

また、広報委員会の皆様が様々な行事に参加できない保護者の皆様に代わって写真を撮影するなど、行事の取材を行い、広報誌を作成していただくことにより学校の様子を知ることができています。そういう面も非常に大きなことだと思います。

さらに、成人教育委員会の特徴的な活動であるSDGsを意識したエコバック作成については、生徒が卒業してからも長く使い続けられるデザインを考えられていると感心いたしました。今年度の環境に配慮したエコボールペンの作成も何色が配られるかが分からないというところが生徒どうしのコミュニケーションの場を広げることに繋がっており面白い試みだと思います。

ふれあい委員会の文化祭への協力も事前にアンケートを実施し、生徒の趣向を調査したり、生徒の販売団体と被らないように商品を選定したり、さらには、販売結果を授業にフィードバックしていただいたということですが、保護者の皆様と学校、生徒が協力して学ぶという点が、開かれた教育課程を目指す上で、とても素晴らしくありがたい取り組みだと思いました。

今回の発表はコロナ禍におけるPTA活動の在り方をお示ししていただけただけでなく、コロナ禍においてPTAと生徒、学校、地域をどのように繋げていくかに大きく踏み込んだ素晴らしい試みだと思いました。PTAの皆様が積極的に学校運営にご協力、参画していただくことがPTA活動の活性化、ひいては学校の活性化、生徒の成長に繋がっていくと信じております。

本日の発表、誠にご苦労様でした。次年度は西湘高校が発表校となりますので、とても参考になりました。研究発表の成果を活かして、今後とも活発な活動を続けていただくようお願いいたします。講評とさせていただきます。



講演

演題 子どもたちのやる気を引き出す言葉の力～ペップトーク～

講師 一般財団法人日本ペップトーク普及協会 専務理事 浦上 大輔

皆さんこんにちは、日本ペップトーク普及協会の浦上大輔と申します。どうぞよろしくお願いたします。

今日はペップトークというお話をしていきます。ペップトークという言葉は初めて聞いた人はいませんか。難しい言葉と思われるかもしれませんが、皆さんが学校やご家庭で使われている励ましの言葉のことで、人や自分をやる気にさせる言葉がけについて一緒に学んでいきましょう。

ペップトークというのは元々アメリカのスポーツシーンから来ています。ペップというのは「元気、活気」といい、指導者が選手たちに送る「激励のショートスピーチ」のことをいいます。

スポーツ繋がり、女子サッカーワールドカップの話をしたと思います。初めてのワールドカップの決勝戦で、決着がつかず、PK戦にもつれ込みました。ところが、PK戦で4番目に蹴るはずの澤選手が辞退してしまいました。そこで、佐々木監督は1番若い熊谷選手を指名しました。ただでさえ緊張する場面です。熊谷選手から「なんで私なんですか。」と聞かれた佐々木監督は何て言ったと思いますか。「お前なら絶対にできる。」ではないんです。「背番号4だから。」と言ったんです。ある意味でジョークを言ったんですよね。でもこれが、本番で相手が1番力を出せる言葉がけ、ペップトークなんです。さてこの後、円陣を組んで、PK戦直前に佐々木監督は全員に対してペップトークをしました。何と言ったのでしょうか。

(動画略)

正解は「思いっきり楽しんで来い」でした。日本の優勝の陰に非常に短いペップトークがあったんですね。

さて、「言葉が変わればチームが変わる目指せ優勝大作戦」という私が直接関わった野球チームの旗の台クラブのお話です。お父さんコーチたちの普段の声掛けは、何か失敗したときに「何やってんだバカ」、「ボール球に手を出すな」など自分たちが子供の頃に受けてきた言葉がけをしていました。そこで、「ポジティブ語大作戦」をやりました。失敗したときに「どんまい、次頑張ろうな」、「ボールをしっかり見てキャッチしていこう」など言葉を直していきました。また、「最高、最幸、さあ行こう」という自分を励ます合言葉を作りました。さらに、まだ起きてないけど、起きてほしいことを先にお祝いする「予祝」として、優勝の予祝新聞の作成、決勝前に優勝を祝う動画作成、優勝監督インタビューを行いました。その結果、昨年まで1回戦敗退だったチームが124チームのトーナメントで優勝しました。さらに2年後の東京都の約2000チームの頂点に立ち、全国大会に出場してベスト8になりました。

さて、皆さん今日からペップトーカーと一緒に言葉の力を磨いていきましょう。今日はありがとうございました。

